

HSK こころから

56号

2016. 7

まアリこと
おもしろいほど
変化あり
たまたまの花
世論で突っ
美



昭和48年1月13日第3種郵便物認可
HSK通巻番号532号
発行 2016年7月10日(毎月10日発行)
編集 住所: 札幌市西区八軒8条東5丁目4-18
団体名: 特定非営利活動法人(NPO)
精神障害者を支援する会
TEL: (011) 736-1697
発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)
定価 50円(会費に含む)

活動日誌

2016年4月～2016年6月

* 全体行事

支援する会20周年記念お花見(アサヒビール園・ロイン亭) 5/4(水)

* ダリアの郷支援センター

全体ミーティング 4/12(火) 5/10(火) 6/14(火)

卓球レク(毎週金曜日) 4/1.8.15.22、5/6.13.20.27、6/3.10.17.24

ボールペン習字 4/7(木)、4/21(木)、5/19(木)、6/16(木)

読み書き勉強会 4/11(月)、5/23(月)、6/20(月)

パソコン開放日 4/1.4.8.11.15.18.22.25、5/2.6.9.13.16.20.23.27.30、
6/3.6.10.13.17.20.24.27

外出レク 5/9.12.13.16.19.20.23.26.27.30、
6/2.3.6.9.10.13.16.17.20.23.24.27.30

ボーリングレク 4/26(火)

映画鑑賞会 5/17(火)

カラオケレク 5/31(火)

喫茶のつどい 6/21(火)

ヨガ&ストレッチ 6/28(火)

* 共同作業所HAPPY

西区民センターバザー 4/13(水)～4/15(金)、6/1(水)～6/3(金)

手稲区役所バザー 5/18(水)～5/20(金)

HAPPY 総会 4/21(木)

互助会HAPPY'S 総会 5/23(月)

* グループホーム

【若根荘】 誕生会・歓迎会“魚べい” 4/22(金)
プラネタリウム見学と食事会 6/24(金)

【マゼル】 寿司屋で夕食会 5/2(月)

【結】 誕生会 4/12(火)、誕生会 5/31(火)
夕食会“焼肉徳寿” 5/20(金)

【ひなた】 出前の日 5/2(月)

【ぼぶら】 歓送迎会 4/8(金)、誕生会 5/26(木)

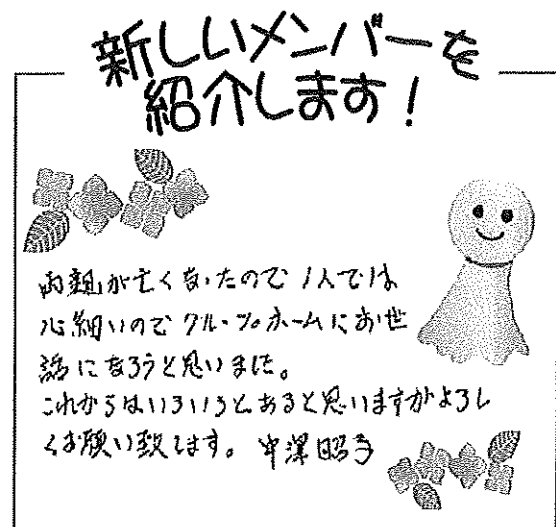
サポートセンター「和」定期点検 4/22(金)、5/27(金)、6/24(金)

* 会議・学習会

生活保護アンケート学習会 5/15(日)

* 関係機関主催行事

- ・きょうされん街頭署名 4/14(木)・きょうされん国会請願行動 4/20(水)
- ・きょうされん北海総支部総会 5/14(土)・西区精神保健福祉連絡会総会 4/20(水)
- ・4.21大集会 4/21(木)・5.12集会 5/12(木)・メーデー集会 5/1(日)・新・人間裁判第二次提訴 5/12(木)
- ・札幌援協総会 5/17(火)・平和行進 5/21(土)・すみれ会総会 6/5(日)
- ・新・人間裁判第7回口頭弁論 6/8(水)・運賃割引市長懇談 6/10(金)
- ・支援する会総会 6/18(土)・道生連焼肉班会 6/25(土)





初めてお花見に
参加した方の
感想です！

5/4 (水) お花見 in ライン亭 ～支援する会結成20周年記念～

初めて皆で
楽しく食べれた
のがうれしかったです

中澤昭彦

初めて行って、
とても楽しかった。
また行きたいです。
かおり

みんな肉が好きなのね
* すきやき *

みんな食べれてたいへん
楽しかった。会長 ホールパン
お礼どうもありがとうございました。
松本真郎

お花見 初参加で
多少緊張していましたが
皆でおいしいお肉
を食べられて
うれしかったです。
長川

はじめは冷やかし
のふたが流しが出て
楽しい一時を
過ごせた
小美浪

お花見 初参加
みなさんと一緒に食べた
お話しをしたりと、とても
楽しい時間を
過ごせました
寿田



木崎 直生

「支援する会」ができて、20年経ったと聞きビックリしている。僕は41歳になり自分の半生期をここでお世話になったと気づかずにいたからだ。

僕は両親に大切に育てられ、優しい妹もいるが、中学生の時に悲惨なイジメに遭い心はドライだった。毎朝、カーテンを閉めて「さだまさし」のレコードを一曲聞いて心を落ち着かせ、通学していた。居場所を求めてフリースクールや精神病院を転々とした。僕の暮らしは荒れ果て、自分の力では生きていくことが出来ないと分かってきた。この日本に自分の居場所は全く見つからなかった。細川さんと道生蓮の人に会い、できたばかりの共同住居に入った。地獄のふちを歩いてきた仲間ゆえ、皆優しくった。やっと居場所ができた。

細川さんは、共同住居を作る際に近隣を一軒一軒挨拶して回ったと聞いた。大変な苦勞と命がけの優しさの連続だったと思う。僕を理解し支援してくれた多くの関係者の方々に、この場を借りて感謝したい。



村上 久美子

1996年、私は旭川で一人暮らしをしており、入退院を繰り返していました。「お前を残しては死にきれない」と私の将来を心配していた母は、北海道新聞で『札幌に女性のグループホーム若根荘ができた』記事を見てすぐに札幌に出かけ、細川さんと会い入居を決めてきました。母は細川さんと言う人を信じたのです。

1996年12月24日に若根荘に引越。細川さんが「久美ちゃん、早く片付けないと寝る所がないよ」と言いながら片付けを手伝ってくれ、三浦さんと佐藤さんが冷蔵庫を部屋に運んでくれました。三浦メンタルクリニックにも助けてもらいました。

私は母の敷いた線路の上を歩いて来ました。母は亡くなり、若根荘に入ってなかったら今の自分はないと思います。「自分の出来る事は率先してするように」との母の教えを守り、生活のリズムを崩さないよう気を付けながら若根荘で暮らしていきたいと思います。



小西 やえ子

私は10年以上も入院したままでした。院長先生が、若根荘まで一緒に来て頼んでくれました。知り合いでもなんでもないのに、細川さんが私を認めてくれて入居できたのがうれしかった。その時、若根荘は8人が入居していて、みんなでオムライスやカレーライスなど食事作りをしたのが楽しい思い出です。

どこにも帰れない私たちのために、毎年大晦日に『年越し会』をやってくれました。元旦にはお雑煮・煮しめでお正月が来ました。お年玉に財布やカーディガン・マフラーなどももらいました。すごくうれしかった。

25年ぶりに娘が千葉県から訪ねてきて、支援する会で対面しました。娘は、まず最初に「お母さん産んでくれてありがとう」と言うてくれました。すごくうれしかった。その後毎年、年賀状で娘や孫の成長ぶりもわかって生きている楽しみがあります。

これからも若根荘でみんなと仲良くすごしていきたいです。

支援する会は、1996年に結成し、今年で20周年を迎えました。

結成当初から、支援する会を利用している6名の方に、「今、思う事」を伺いました。

祝

支援する会

結成20周年

阿部 幸一



今年12月に79才になります。19才から約40年間入院をしました。初めに入院した病院では、看護師の代わりに働いたり、草取りもしていましたが、とても辛くて病院から逃げ出しました。脱走して3日目に自衛隊員と警察に見つられて、別の病院に入院しました。

入院先から通っていた、すみれ共同作業所で、細川さんと出会いました。退院先のなかった僕に、細川さんが『グループホームに入らないか』と声をかけてくれて、やっと退院できました。

グループホームではよく喧嘩をしました。僕が、いきり立って職員さんに殴りかかった事もあるし(でも、決して女性の職員さんには手を挙げませんでした)、調子の悪いメンバーが殴りかかってきた事もあります。そういう時は、三浦理事長や職員さんが泊まりに来てくれました。

細川さんと会っていなかったら、僕は今頃一人ぼっちで死んでいたと思います。会えて本当に良かったです。

阿部 嗣博



当時入院していた僕を、弟と細川さんが迎えに来てくれた。退院してグループホームまぜるに入居した。初めは退院できて嬉しかったけど、人と会うのが苦手だった僕は、グループホームでの生活になかなかなじめなかった。

僕の後に入居してきた嶋田さんが、僕の部屋にみかんを1個持って遊びに来るようになり仲良くなった。嶋田さんが僕を街のあちこちに連れ出してくれるようになり、うれしかった。糖尿病が悪化して内科に1年間入院し、別のグループホームに移る事になった。それが今住んでいる、グループハウス結だ。

以前は家から出たくなかった僕だが、グループホームに入居し嶋田さんと出会い、用事がある時は一人で出かけられるようになった。感謝している。

今は、グループホーム生活も体調も安定している。支援する会につながる事ができて良かった。

堀田 美千子



おめでとうございます。20年を共に歩んで、来し方を振り返りますと、様々な事が思い起こされます。『家族のように生きようね』。そんな優しく温かさの中、「私のような障害者でも生きていて良いんだ」と思った日々。新しくオレンジ色の三階建てのビルを建ててくれて、うれしさに、指折り数えて待った日々。ビルの完成を見た日の喜び。亡くなった仲間を皆で送った日。年越しの日のおせち料理の美味しかった事。だんだん大がかりになるクリスマス会。私がボランティアが出来なくなっても、うれしい時も悲しい時も、細川さんも理事長も、皆いてくれましたよね。そんな中、私も生活保護改悪での集団訴訟『新・人間裁判』の原告になった事。『支援する会』は、私の生活の中にしっかりと組み込まれていて、なくてはならぬ存在となりました。今、思います。これからは障害者も支援者も、皆で力を合わせて、新たな未来を皆の手で切り開いて行きましょう。

支援する会 20 周年を記念して

明日へつなぐ希望求めて

— 支援する会物語 (第一回) —

細川美子

<国際障害者年が契機>

私たち「生活と健康を守る会」の仲間が精神障害者と関わるきっかけになったのは、1981年に福祉・社会保障に全面的な攻撃をかけてきた、あの臨調「行革」路線が日本全国に吹き荒れはじめた年でした。

折しもそれは「障害者の人権保障」を基本とした「国際障害者年」の始まりの年であったのです。それまで遅れていた精神障害者に対する施策と人権の保障を求めて精神障害者自身が「私たちも人間です。その生きる権利を保障して」との願いを訴えに、彼らと一緒に自治体をはじめ国に向けて粘り強い運動が草木を分けるように始まったのでした。

<精神障害者が地域で暮らし始める>

その運動の成果が社会復帰のための共同作業所をはじめ、グループホーム、働くきっかけを作る職親事業や社会適応訓練事業などの施策の充実で多くの障害者が地域で生活するようになってきたのです。

しかし、事態はまだまだ深刻で、家族から阻害されたり、地域での理解が得られないために、一人ではなかなか暮らせない人たちが、病院に十年も十五年も入院している人なども少なくありません。

<障道協結成>

この国際障害者年をきっかけに、北海道で障害者の権利を守って運動する団体を作ろうという動きが大きく広がり、翌年の1982年に「障害者の生活と権利を守る北海道連絡協議会」(障道協)が結成されました。そして「障害者の生活と権利を守る全国協議会」に加盟し、特に遅れている精神障害者の施策を全国的な運動にしていくために貢献してきたし、今日でも精神障害者の交通費助成の差別を解消するために先頭に立って奮闘

しています。

障道協の神原義朗会長が病気になって運動が出来なくなったことで、細川が1992年から10年間会長に選任され、その中で、本当の意味で、障害者の生きると言うことが差別されてきたのか、またことさら精神障害者の人間らしく生きていることになっていないのかを知ることとなったのでした。

<共同住居をつくる>

国際障害者年の10年間は障害者のノーマライゼーションという言葉が社会や国の施策に位置付けられてきたと言えますが、それでも精神障害者の人権は、国や自治体に受け止められていないことを痛感する日々でした。

このような実態の中で、精神障害者の大きな要求であった「病院から退院して地域で暮らしたい」との願いは入院している障害者から寄せられ、1996年の2月に行った障害者の生活と権利を守る北海道協議会の交渉の席で「精神障害者が地域で暮らすための共同住居を作ってください」という要求に札幌市が、「補助金を出すので、ぜひ障道協でも作ってください」との回答にすかさず、「じゃあ作りましょう」と答えたことがきっかけで、その年に精神障害者のグループホームづくりを決意したのでした。

(次号に続く)



“新・人間裁判” 原告の思い



吉田 伸さん

支援する会に入って数年が経ち、自分や仲間の病気や障害について学ぶ中で、これからの自分の人生についても考えるようになった。仲間が団結して頑張っているの

で、自分も声を挙げようと思った。

生活保護は生活に困った時の最終手段。これが改悪されると、これから先、若い人にとっても大変な事だ。細川さんや片山さん任せではなく、当事者自身が自分の出来る事をやっていけば、少しずつでも制度が良くなると思っている。



宮崎 砂和子さん

生活保護を受けられている事には、本当に感謝しています。でも、保護費引下げには反対です。

生活保護を受けている人皆が不正受給者の様に報道されたり、

貯蓄できる金額に上限が設けられたり、収入は全て収入認定されたり。自由な生活とは程遠く、肩身が狭い思いです。家電品の買い替え、障害のある息子の将来など不安がつきまといま

す。保護費引下げ反対集会に参加する中で裁判原告になるべくしてなったと思っています。



スタッフを
紹介します①

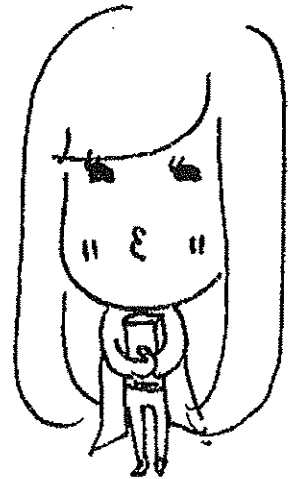
長谷川 香代
です。



今年の3月から、マザーハウ
スぼぶらの世話人として働かせ
ていただいています。元気なス
タッフと明るくやさしいメンバ
ーさんに囲まれて、毎日楽しく
過ごしております。
日々学び、少しでも皆さんの
お役に立てたらと思っています。
どうぞよろしく願いいたし
ます。

スタッフを
紹介します②

寺田 詩織
です。



3月に専門学校を卒業し、
その月から共同作業所 H A
PPYでスタッフをしています。
ここへ来たきっかけは、作
業や行事活動に積極的に参
加し、生きいきとした様子が
感じられて素敵だと思った
のがきっかけです。
よろしくお願ひします。

4コマまんが



用度係・消もつ品なども外部から調達する係のこと

<編集後記>

支援する会結成 20 周年。私が支援する会に来たのは、確か 24 歳の時。あれから 17 年（歳がバれる）だから、私は 17 周年。一軒家でダリアの郷支援センターが始まろうとしていた頃でした。当時、私は自分が何をしたいのか分からず、ふらふら・・・。「今のままでは（精神の）病気になってしまう。働いてみたらどうか」と声を掛けてもらいました。私は、「すぐに泣く」「よくものを壊す」スタッフでして、17 年を振り返り『よく投げ出さず育てて頂いた』と感謝の思いと、『支援する会でガンバルぞ』という決意の思いです。皆さんは、どんな思いですか？（藤原）

《寄付金・寄贈品》

当会の活動に対し、ご支援いただき厚くお礼を申し上げます。

（順不同・敬称略）

（有）京屋電機、フジモトアキラ整骨院、藤本青果店、五十嵐満、片石松蔵、工藤禮子、脇川潤子、春木由春、曾我清子、大江静江、米澤康子、伊藤昭子、安彦洋子、川島義和、磯谷敏雄、高橋千佳子、杉山、佐藤恵一、内山、向山、上原、ハマバヤシ、ムラハタ、三浦、小林、タカオカ、高坂瑞世、小島智子、片山則之

2016. 3. 21～2016. 6. 20

～ご協力をお願い～

『書き損じハガキ、ありませんか？』

支援する会では「書き損じハガキ」を集めています。頂いたハガキは、支援する会の財政活動に使わせて頂きます。

ご協力どうぞ宜しくお願い致します。

HSK ころから
 昭和48年1月13日第3種郵便物認可
 発行 2016年7月10日(毎月10日発行)
 HSK通巻番号532号
 編集人
 住所:札幌市西区八軒8条東5丁目4-18
 団体名:特定非営利活動法人(NPO)精神障害者を支援する会
 TEL:(011)736-1697
 発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)
 定価 50円(会費を含む)